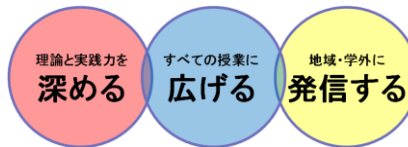
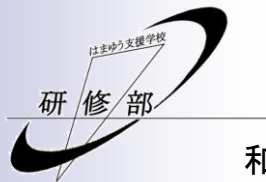


「授業改善・わかって動ける授業づくり」

2年間の研修計画 「深める」「広げる」「発信する」

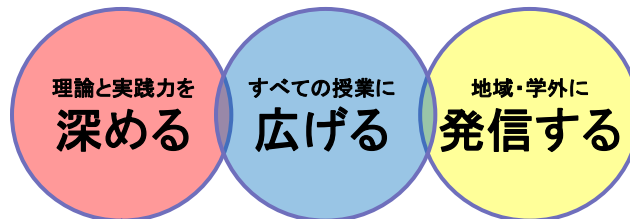


和歌山県立はまゆう支援学校 研修部

全校研修テーマ

「授業改善・わかって動ける授業作り」

～自主的・主体的な授業参加を目指して～



これから2年間の研修を、大きく3つの視点で進めていきます。

一つ目は「わかって動ける授業作り」の「理論と実践力を深める」。

二つ目。2年間の大きな研修の柱ですが、「誰でも」、「どの授業でも」、「学部を超えて」、「年度を超えて」も、わかって動ける授業を実現すること、広げること、またその方法についても、研修を進めます。

最後に、「地域や学外にわかって動ける授業作りの成果を発信します」。

全校研修テーマ

「授業改善・わかって動ける授業作り」

～自立的・主体的な授業参加を目指して～

理論と実践力を
深める

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

地域・学校に
発信する

理論と実践力を
深める

ここまでわかった！ はまゆう支援学校の
『わかって動ける授業作り』

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

地域・学校に
発信する

・高等部の自主的なルール

高等部の作業学習の休憩時間です。

チャイムが鳴ると、子どもたちは誰に声をかけられるでもなく、教室に戻っていきます。

回旋塔の上の女の子も、みんなが動くのに合わせて自分で教室に戻っていきます。



これは、自分たちで決めた「チャイムが鳴って10秒以内に教室に戻る」というルールだそうです。教師が決めたルールではないそうです。

子どもたちが自立的、主体的に作業に取り組み、コミュニケーション機会が増える中で、自分たちで授業のルール（休み時間の終了時間を意識できる方法を見いだす）を作り、みんなで守るように指摘し合える関係にまでなっていました。

理論と実践力を
深める

ここまでわかった！ はまゆう支援学校の
『わかって動ける授業作り』

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を 深める	すべての授業に 広げる	現場・学校に 発信する
----------------	----------------	----------------

高等部



2年間の作業学習の研修で、それぞれの授業で
生徒が自立的・主体的に活動する姿が実現できた。

↓

「わかって動ける」ことによって、
授業の目標、個人の意欲や目標を高められた。

↓

一つの方法として
「価値の高い製品作りを目指す」ことで
授業の目標、個人の意欲や目標を高めようとした。

他者とのコミュニケーション力を高める
取り組みも進めた。

- ・認められる報告、連絡、援助要求の方法の学習。
- ・評価の方法を工夫する。

他者評価、自己評価、仲間同士での評価。
(互いに認め合えることにも繋がれば・・)

理論と実践力を
深める

高等部で深める

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を 深める	すべての授業に 広げる	現場・学校に 発信する
----------------	----------------	----------------



**○多様な評価、多重な評価を積み重ねること
で、自立的主体的な社会参加につなげる。**

他者評価、自己評価、仲間同士の多様な評価を授業に
組み込むことの大切さを確認できた。

また、そのような評価を一つの授業にとどめず他の授
業、学校生活、家庭、実習先等での多重な評価に進める
ことを今後の検討課題としたい。

そういった経験が、社会参加を支えるコミュニケーショ
ン技能の習得と自信に繋がることを期待したい。

○「わかる」

研修部が示す“安心を支える”「わかる」ための支援に
加えて、授業活動が自分たちの将来にとってどのよう
につながっているのか「わかる」ことをどう示せるかも
問題とされている。

授業の目標の提示にとどまらず、何のための授業なの
かが「わかる」ための支援、授業作りが生徒の社会参加
への意欲を育て技能の習得、学習意欲を育てる授業と
なりえると考える。



理論と実践力を
深める

ここまでわかった！ はまゆう支援学校の
『わかって動ける授業作り』

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての児童に
広げる

児童・学校に
発信する

中学部

中学部体育の授業においては
「物」と「環境」の支援環境について十分検討がなされました。
自ら行動を发起させる音楽や映像による支援が有効でした。授業における活動量は飛躍的に伸びました。

運動を楽しむことに加えて、
運動する意義について理解し参加することを目標にできました。





理論と実践力を
深める

評価表の活用

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての児童に
広げる

児童・学校に
発信する

評価表の活用については、
中学部でも更に研修を深められればと思います。

1) 指導目標に関する達成度

目 標		児童生徒達									
		A		B		C		D		E	
		6	10	6	10	6	10	6	10	6	10
朝の会	視覚の手がかりを活用し、自らの会の準備ができる。	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○
	「今日の予定」の際、自発的に教材、教具の準備、後片付けができる。	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○
	給食調べで、役割のメニュー画像カードを自ら貼ることができる。或いは、発表ができる。	×	△	×	○	○	○	○	○	○	○
朝の会	ボードの受け渡しの際、相手の準備し両手で確実に渡すことができる。	×	△	×	○	×	○	○	○	○	○
	ボードを受け取る際、着席して両手で受け取ることができる。	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○
	ボードを受け取る際、「ありがとう」と言うことができる。	△	○	×	○	△	○	△	○	△	○
	誰に渡すのかを理解し、相手の席の前まで行き、自らボードを渡すことに手渡すことができる。	×	○	×	○	△	○	○	○	○	○

児童生徒への
「わかる」「動ける」ための
「物」と「環境」の支援が有効に働いているかを教師の感覚だけではなく、客観的に検証する方法として、このような
「指導目標に関する達成」を示す評価表を用いました。

理論と実践力を
深める

評価表の活用

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

児童・生徒に
発信する

縦軸に「授業の目標（評価のポイント）」を示しました。
横軸には「児童生徒の名前」と「評価時期」を示し比較できるようにしました。

「児童生徒の名前」
「評価時期」を記入する。
比較できるようにする。

「授業の目標
（評価のポイント）」を示す。

	A		B		C		D		E	
	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月
巻き上げ機を持ち、腕を伸ばせる。	○		○		△		○		○	
巻き上げ動作ができる。	○		○		△		○		○	
手首を曲げ、動作できる。	△		×		×		○		△	
巻き上げ動作が1分間持続できる。	○		○		×		○		×	

理論と実践力を
深める

評価表の活用

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

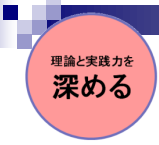
児童・生徒に
発信する

目標項目には大きく二つの要素を組み込んでいます。
一つは「授業に自立的、主体的に参加できる」ことを目標とした項目。
二つ目には「教科・領域における目標」です。

支援学校の授業では、授業に自分から参加するからこそ学ぶことができます。
ですから、参加できているかを基本的な評価ポイントとしているわけです。

「授業の目標
（評価のポイント）」を示す。

		A		B	
		6月	10月	6月	10月
「参加できる」ことを 目標とする項目	巻き上げ機を持ち、腕を伸ばせる。	○		○	
	巻き上げ動作ができる。	○		○	
「教科・領域における 目標とする項目」	手首を曲げ、動作できる。	△		×	
	巻き上げ動作が1分間持続できる。				



評価表の活用

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

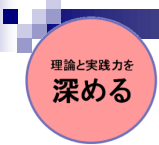
すべての授業に
広げる

関係・学校に
発信する

	A		B		C		D		E	
	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月
巻き上げ機を持ち、腕を伸ばせる。	○		○		△		○		○	
巻き上げ動作ができる。	○		○		△		○		○	
手首を曲げ、動作できる。	△		×		×		○		△	
巻き上げ動作が1分間持続できる。	○		○		×		○		×	

※A君も、B君も、Cさんも、目標を達成できていない。

横列に△や×がそろえるということは、
(集団全体)への支援を改善する必要があることを示しています。



評価表の活用

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

関係・学校に
発信する

	A		B		C		D		E	
	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月
巻き上げ機を持ち、腕を伸ばせる。	○		○		△		○		○	
巻き上げ動作ができる。	○		○		△		○		○	
手首を曲げ、動作できる。	△		×		×		○		△	
巻き上げ動作が1分間持続できる。	○		○		×		○		×	

※Cさんだけが、目標を達成できていない。

たて列に△や×がそろえるということは、
(個人)への支援を改善する必要があることを示しています。

理論と実践力を
深める

評価表の活用

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

関係・学校に
発信する

	A		B		C		D		E	
	6月	7月	6月	7月	6月	7月	6月	7月	6月	7月
巻き上げ機を持ち、腕を伸ばせる。	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
巻き上げ動作ができる。	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
手首を曲げ、動作できる。	△	○	×	△	×	○	○	○	△	○
巻き上げ動作が1分間持続できる。	○	○	○	○	×	△	○	○	×	△

たて列、よこ列に○がそろえるということは、
(目標)を(高める)必要があることを示しています。

理論と実践力を
深める

こここまでわかった！ はまゆう支援学校の 『わかって動ける授業作り』

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

関係・学校に
発信する

小学部



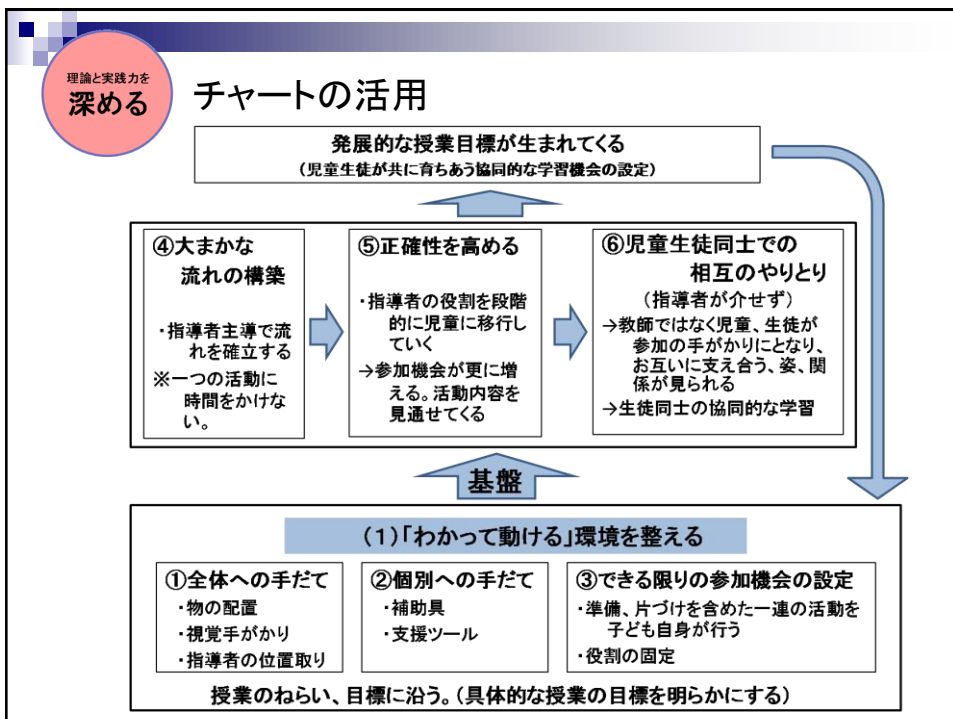
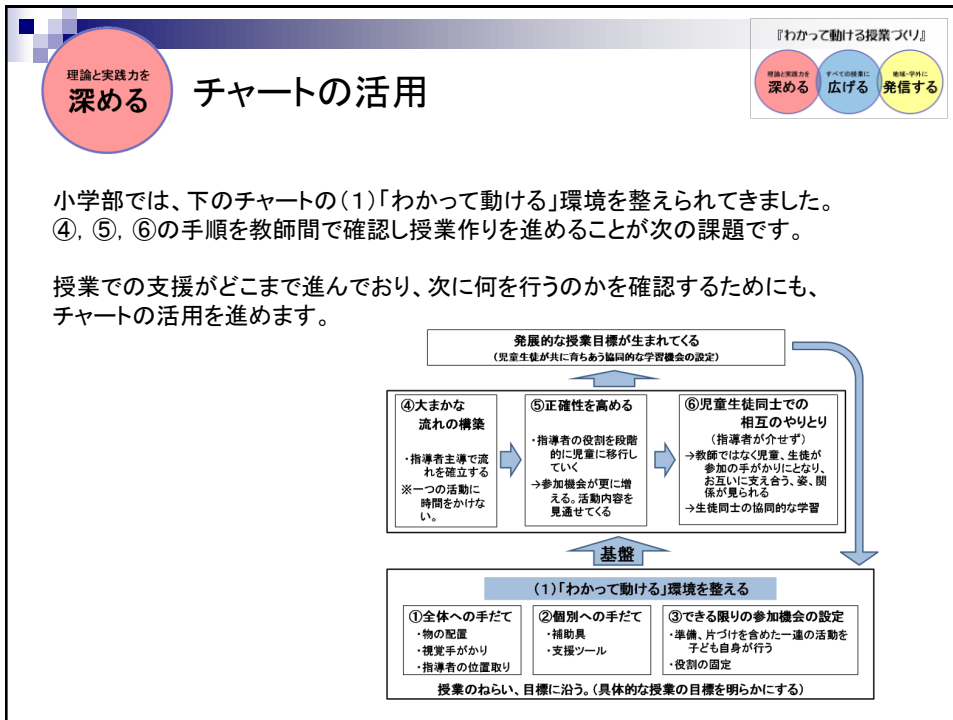
児童の隣に張り付き指導していたスタイル。

「物」による支援を徹底的に進めた授業
 ・数多くの支援ツールを作成
 ・必要とする支援ツールへの絞り込み、改良

教師が動く回るのではなく、児童が自信を持って活動できる「朝の会」。

他者を意識し適切に関わる方法の学習
 ・自発的に相手に関われば、どのような方法でも良い
 というわけではなく、正しい関わり方を最初から教える。
○「予定ボード」とその手渡し行動
 ・関わり方の適切な方法、ことばの発出のきっかけを明確に児童に伝えるもの。

児童生徒同士の関わりややりとりの多い授業。
 ・児童自身の活動が次の児童の行動のきっかけを生み出す。



全校研修テーマ

「授業改善・わかって動ける授業作り」

～自立的・主体的な授業参加を目指して～

すべての授業に
広げる

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

地域・学校に
発信する

すべての授業に
広げる

「誰でも」、「どの授業でも」、「学部を超えて」、「年度を超えて」も、
「わかって動ける授業」を実現する。

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

地域・学校に
発信する

研修計画 ※学部での授業研修は年間10回実施する。

平成23年度	5月	現職教育 全校研修
	6月	公開研究授業
	7月	講演研修
	10月	公開研究授業 授業協議会 講演研修
	2月	全校研修

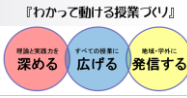
平成24年度	4月	現職教育 全校研修
	6月	公開研究授業 授業協議会 講演研修
公開実践報告会	未定	研究授業 公開授業 授業協議会 分科会 講演
	2月	全校研修

研究授業対象学部 研修内容等			
全校研修テーマについての概略説明 研修計画の説明			
小学部		中学部	自立活動部 聴覚教育部
講師 富山県 特別支援学校 教諭			
A学部	高等部		
講師 上越教育大学大学院講師 村中 智彦 先生			
		各学部	年度末研修報告 年度またぎ
	高等部	中学部	
(案) 外部専門家講師			
小学部	高等部	中学部	
公開実践報告会の内容は未定 (案) 外部専門家講師			
各学部	年度末研修報告		



すべての授業に
広げる

「誰でも」、「どの授業でも」、
「学部を超えて」、「年度を超えて」も、
「わかって動ける授業」を実現する。



『わかって動ける授業づくり』
理論と実践を
深める すべての授業に
広げる 教員・学校に
発信する

誰でも、 どの授業でも	○現職教育	全校研修テーマについて
	○全校研修(講演研修)	講師 富山県内 特別支援学校 教諭 同じ教員の立場から、「分かって動ける授業作り」をすべての授業で 実現するための取り組み、その理論について講演いただく。
	○研究授業、授業協議会、 講演研修(23年10月、24年6月)	講師 上越教育大学大学院講師 村中 智彦 先生 今年度までと同様、授業に対して直接的に御指導いただく。
	○学部研修	月1回

年度始めに行う「現職教育」では、本校の「わかって動ける授業づくり」の基本的な考え方、研修の方向性を、研修部が伝え、全員で確認します。

誰でも、どの授業でも「わかって動ける授業」を実現できるために、外部専門家をむかえ、教員一人ひとりの理論と実践力を高める研修を計画、実施します。

学校全体での研修から、各学部、授業チームと集団を小さくしながら論議を深め、実際の授業改善へとつなげます。



すべての授業に
広げる

「誰でも」、「どの授業でも」、
「学部を超えて」、「年度を超えて」も、
「わかって動ける授業」を実現する。



『わかって動ける授業づくり』
理論と実践を
深める すべての授業に
広げる 教員・学校に
発信する

学部を超えて	○研究授業研修	互いの授業を直接参観できる機会を作る。 授業参観できる教員を増やす。 他学部の実践、研修成果を理解、共有しやすくする。 そのために、 ・授業研修(研究授業)は午後から実施する。 ・研究授業以外の児童生徒は下校する。 ・研究授業は2つの学部にとどめ、実施授業数を減らす。
	○年度末の 研修報告	他学部の研究授業の要素を取り入れられたかを検証。

学部を超えても、「わかって動ける授業づくり」の方法を共有できるように、他学部の授業を「実際に」参観できるようにしました。

これまでは、ビデオを用いての授業参観、協議会でしたが、今年からは「実際に」授業を参観し、協議を行います。

すべての授業に
広げる

「誰でも」、「どの授業でも」、
「学部を超えて」、「年度を超えて」も、
「わかって動ける授業」を実現する。

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

地域・学外に
発信する

年度を超えて	○学部研修	対象授業を2年間変更しない。 年度をまたいで同じ授業での研修を実施する。
	○年度末の 研修報告	昨年度の研修対象授業は、児童生徒、教員メンバーが替わっても「わかって動ける授業」を継続できたか。 (例) 4月当初は難しかったが、次第に支援が整ってきた。 (例) 支援方法やツールを変更したが、基本的に子どもたちの「わかる」「動ける」ための支援を工夫することで子どもたちの学びを保障でき、目標も高まった。 (例) 昨年度の主指導者が抜け、うまく授業ができなかった。十分自分たちが理解できていなかった。

年度を超えても「わかって動ける授業作り」を進めるために、研修対象授業を2年間同一の授業とし、変更しないこととしました。

次年度も、わかって動ける授業作りを継続できるかを検証し、具体的な方策を各学部で考えます。

全校研修テーマ

「授業改善・わかって動ける授業作り」

～自立的・主体的な授業参加を目指して～

地域・学外に
発信する

『わかって動ける授業づくり』

理論と実践力を
深める

すべての授業に
広げる

地域・学外に
発信する

